

原子力利用に関する世論調査（2006～2016 年度）

（3）調査結果に対する統計分析

Results of the Public Opinion Surveys about Nuclear Energy (2006-2016)

(3) A Statistical Analysis of Survey Results

*高嶋 隆太¹, 永田 彰平¹, 坂井 識顕², 河崎 由美子², 船越 誠², 富山 雅之³, 木村 浩⁴,
川上 和久⁵, 飯本 武志⁶,

¹東京理科大学, ²日本原子力文化財団, ³台東区立御徒町台東中学校, ⁴PONPO,

⁵国際医療福祉大学, ⁶東京大学

本研究では、世論調査の結果に対し、国民の原子力に対するイメージについて因子分析及びその経年変化についての分析、コレスポンデンス分析を行った。その結果、国民は平時において、リスクよりもベネフィットに興味を持つこと、特に、男性はベネフィットへの関心が強い一方、女性は情報や技術の信頼性について関心が強いこと、さらには、性別関係なく高齢者層がリスクへの関心が強いことが明らかとなった。

キーワード：因子分析，コレスポンデンス分析，社会性，リスク認知，ベネフィット認知

1. 緒言

日本原子力文化財団では、2006 年度以降、毎年 1,200 人を対象に原子力利用に対する世論調査を実施してきた。本研究では、本世論調査に対して、選択式の設問には因子分析、自由記述の設問にはテキストマイニング後、コレスポンデンス分析をそれぞれ行うことにより、調査結果の経年変化、特に、東日本大震災時の福島第一原子力発電所事故の影響による国民の意識の変化について明らかにすることを目的とする。

2. 分析手法

2006 年度から 2016 年度までの各設問の回答に対し、因子の抽出法に最尤法、回転方法に斜交回転（プロマックス回転）を用いて因子分析を行った。また、自由記述に関しては、テキストマイニングを行いクラスター分析で語を分類した後にコレスポンデンス分析を用いて性別や年齢など属性ごとの特性を分析した。

3. 結果と考察

因子分析の結果、国民の原子力に対するイメージは、「ポジティブイメージ」、「ネガティブイメージ」、「ベネフィット認知」、「リスク認知」など 6 つの因子、社会性については 4 つの因子に分類されることが判明した。その経年変化については、国民は事故直後、リスクに興味を持つ一方、平時はリスクよりもベネフィットに興味を持つことがわかった。自由記述のコレスポンデンス分析の結果からは、男性がベネフィット、高齢層がリスクに関心が強く、女性は情報や技術に対する信頼性に強い関心を持つことが示された。

4. 結言

本研究において、国民は原子力に対して 6 つの因子を持ち、社会性に対しては 4 つの因子を持つことが明らかとなった。その因子の経年変化においては、福島第一原子力発電所事故前後のそれぞれの年度の結果により、リスク認知やベネフィット認知への意識の変化が観察された。また、自由記述の結果に対する分析においては、男女間、年齢別のそれぞれの違いについて明らかとなった。今後は、自由記述も含めた各設問と本研究の結果に相関分析、重回帰分析を行うことで、国民の意識の傾向を分析する予定である。

*Ryuta Takashima¹, Shohei Nagata¹, Noriaki Sakai², Yumiko Kawasaki², Makoto Funakoshi², Masayuki Tomiyama³,

Hiroshi Kimura⁴, Kazuhisa Kawakami⁵ and Takaeshi Iimoto⁶

¹Tokyo Univ. of Sci., ²JAERO, ³Okachimachi-Taito J.H.S., ⁴PONPO, ⁵IUHW and ⁶The Univ. of Tokyo